

鷗外「舞姫」論争で一世を風靡

## 忍月句碑 (平成13年(2001)建立 花宗川沿い)

花宗川沿いは親愛なる養父の地 地図C-4

句碑は忍月の養父・養元の診療所兼邸宅のあった場所に建つ。忍月はたびたび八女を訪れており、三男・山本健吉も邸前の花宗川で水泳などを楽しんだという。

## 画道一筋 決意かたく 坂本繁二郎歌碑

(平成16年(2004)建立 アトリエ跡地)

「放牧三馬」が生まれた八女のアトリエ

歌碑は「放牧三馬」等が描かれた市内緒玉のアトリエ跡地に建つ。裏面の「坂本繁二郎」の署名は自筆。戦後の苦しい時期の決意。坂本の日記を写し取った薫夫人の筆跡を拡大模刻した。

### 坂本 繁二郎

(さかもと はんじろう)  
明治15年～昭和44年  
(1882～1969)  
久留米市生まれ。雅号 帰居  
画家・青木繁は同郷・同級生。  
昭和6年(1931)、八女にアトリエを構え製作拠点とする。  
墓所は市内無量寿院。

■坂本繁二郎アトリエ跡地  
八女市緒玉134番地-1



風となり雨となるともわれはたゞ  
此姿まゝに歩む一筋

「赤絵」創造の陶工・柿右衛門の故郷

## 酒井田氏発祥の地 記念碑 (平成14年(2002)建立)

「赤」の根源には八女の風土が

もともと市内酒井田は酒井田一族の発祥の地であり、初代柿右衛門(喜三右衛門)の父・円西は同地で生まれ育った。記念碑そばに、建立時に酒井田家より寄贈された柿の木が植えられている。

### 第十四代 酒井田 柿右衛門 書

(さかいだ かきえもん)  
昭和9年(1934)～  
有田の陶芸家、人間国宝



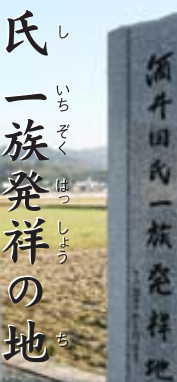
■酒井田氏一族館跡地  
氏神長田丸宮天満宮  
八女市酒井田776番地

花掃けば花より抜けて蝶飛べり

### 石橋 忍月

(いしばし にんげつ)  
慶応元年～大正15年  
(1865～1926)  
文芸評論家 本名・友吉  
黒木町生まれ  
山本健吉は三男  
帝大学生時代、森鷗外との「舞姫論争」は有名。山本健吉・石橋秀野夫婦らと共に市内無量寿院に眠る。

酒井田氏一族発祥の地



## 母を想う「浪漫の旗手」。夭折の天才画家 青木繁歌碑 (平成14年(2002)建立 岡山公園)

山頂に立って歌う「望郷の歌」

歌碑のある岡山公園は、繁が少年時代「画壇のアレキサンダー大王になる」と誓った場所。歌は当時日本一の楡生産地だった室岡にいた母に捧げたもの。碑文の書は坂本繁二郎。すぐ近くの高速度道路法面には、地元有志により楡1000本が植栽され、毎年秋の「紅楡まつり」では繁の子・福田蘭童作曲による父の歌を地元岡山小学校生が合唱している。



■岡山公園  
八女市室岡585番地

標高約50m。八女市を一望できる景勝地で桜の名所として花見客も多い。明治44年(1911)、陸軍特別大演習時に明治天皇御立所となった。別名「龍頭山」。

### 青木 繁

(あおき しげる)  
明治15年～44年  
(1882～1911)  
久留米市出身 洋画家  
繁の母のマサヨは八女郡  
岡山村(現八女市)室岡  
出身。29才で死去した彼の葬儀は室岡の母の実家で行われた。



## 蕉門十哲の一人、岩戸山に立ち寄る 去来句碑 野田成亮日記碑

(昭和55年(1980)建立 岩戸山古墳)

石人石馬 もののふの夢の跡

昭和9年に発見された野田成亮の「日本九峯修行日記」によって、去来が岩戸山を訪問して詠んだ句と、本人が触発され作った句が明らかになり、二人の顕彰句碑が建立された。この古墳帯は「人形原」と呼ばれ、膨大な円筒埴輪や石人石馬が立ち並んでいた。



▲句碑の西面

### 野田 成亮

(のだ なるしげ)  
宝暦6年～天保6年(1756～1835)  
佐土原・安宮寺住職 高位修験僧  
回國修行旅行中、久留米藩で去来の句を知り、文化10年(1813)9月15日岩戸山を訪問して自分も句を詠んだ。



▲句碑の東面



### 向井 去来

(むかい きよらい)  
慶安4年～宝永元年  
(1651～1704)  
俳諧師 長崎県生まれ。京都嵯峨野に住み蕉風の代表句集「猿蓑」を編纂。元禄12年頃岩戸山古墳を訪れた時に句を詠んだ。

■岩戸山古墳(国指定史跡)  
八女市吉田1552

九州最大級の前方後円墳で6世紀後半に北部九州を統治し朝廷と戦った筑紫君磐井(つくしのきみいわい)の墓。岩戸山歴史資料館では、そこから出土した埴輪など貴重な文化遺産を保存し展示公開している。

わがくにはつくしのくにやしらひわけは、いまずくにはじおほきくに

稲妻や人形が原の魂よばい  
去来